



分列行進の様子（佐賀地区）

消防団出初式が行われました

1月11日、恒例の消防団出初式が行われました。

消防団員のほか、女性消防隊、消防署員など関係者約300人が大方総合支所の駐車場に会し、表彰式などの式典を行った後、町内のパレードに出発しました。今年も、蛸瀬川の堤防で一斉放水を行い、その後、佐賀地域へ車両パレードを行いながら移動、佐賀漁港から佐賀総合支所前グラウンドまで徒歩と車両による分列行進を行いました。

火災はもとより、災害の少ない1年であることを願いつつ、地域の安全・安心を支える消防団の皆さんが今年も活動を始めました。消防団の活動に対する町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

伊田びんび工房が高知短期大学生「すし身づくり」

1月10日、伊田びんび工房（高知県漁業協同組合伊田支所女性部）が県立高知短期大学の学生20人と一緒にすし身づくり体験を行いました。

当日の朝に伊田漁港で水揚げされたトビウオやアジ、モイカ、ガタンボなどを材料に、捌いて内臓を取るなどの下準備から始め、ミンチ機にかけて調味料を加え、手と機械で十分にこねて作りあげたすし身を天ぷらとコロケにししました。また、女性部の方々が持ち寄った野菜を使ってかき揚げも作りました。

参加した生徒の中には元漁師の方もおり、魚のさばき方のアドバイスをいただくなど



伊田びんび工房（加工場兼直売所）
☎44-1077 ㊟44-1078

交流も見られました。

できたての料理をみんなで食した後は生徒の方々から「このすし身はどこに行けば買えますか」「ここで獲れたものをすぐに調理するからおいしい、ここでしかできない味だ」と思う。「手作りの過程をきちんと消費者に見てもらおう」とが大事だと思う、自分たちを消費者も安ければいいのではなく、手づくりの手間や安心さを理解したうえで価格を見なければと感じました」「子どもたちの体験を受け入れる時は作るだけではなく最後の後片付けまで体験をさせて欲しい」「手作りの漬物が非常においしかった」と、質問や提案などが次々と出されました。

伊田支所女性部部長の杉本政子さんは「昔は大勢いた女性部も高齢化で15人ほどに減り、平均年齢は70歳です。伊田びんび工房のこだわりは、伊田で獲れた魚・手づくり・天日塩などの調味料で安心安全な食を提供すること。今後いろいろな場面で自分たちの活動や地元産の良さをみんなに宣伝していきたい」と話してくれました。

自然体験学校「手打ちうどんの教室」が行われました

1月18日、「手打ちうどんの教室」（黒潮町まちづくり推進委員会なぶら（会長長嶋千代美）主催）がカツオふれあいセンター黒潮一番館で行われました。

日頃からなじみのある「うどん」を自分でつくってみようという町内から33人も参加がありました。

地元講師の山崎由紀子さんから「私の故郷、高松で幼い頃から『うどんのように粘り強く、こしの強い（腰を据えて辛抱強い）嫁になるように』と伝えられた手打ちのうどん作りをみなさんに楽しんで体験してもらえたらと思います」と挨拶があり、その後さつさくうどん作りに取り掛かりました。



強力粉に少しづつお湯を加えながらこねます。[材料(3玉分): 強力粉1kg、お湯500cc(人肌程度の温度)、塩55g(お湯に混ぜる)]



最後はみんなでおいしくいただきました!「お土産もたっぷり満足!疲れたけど楽しかった。またやりたいですね~」



折りたんで細目に切り軽くほぐしたらできあがり!!



30分ほど生地をねかせたら、麺棒を使って薄く伸ばします。「伸ばしても縮む!?これがコシか!」



大きめのナイロン袋に入れて、次は粘りがでるまで足踏み。「おまん、体重が足りんみたいなので!」



ざら目のない、なめらかな生地になるまでひたすらこね続けます。耳たぶくらいの柔らかさまで。「これ、意外と力いるね~。なかなか柔らかあならん」

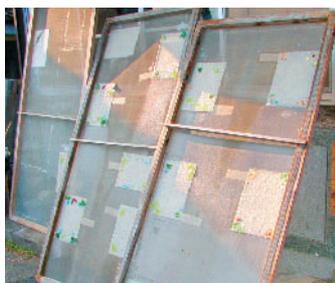
佐賀小学校6年生児童
紙漉きで卒業証書制作②



まだらにならないように、できるだけ平面的なかみになるように、型枠を持つ手にも力が入ります。

1月17日、佐賀小学校6年生の児童が昨年に引き続き卒業証書制作に取り掛かりました。今回は口湊川地区にある中嶋久実子さん（和紙ハレハレ本舗）の作業場に向き、紙漉きの作業を実施しました。保護者の方々が興味津々に見守る中、みんな前回行った楮の皮はぎ以上に、緊張した顔つきで慎重に真剣に紙を漉いていました。

使用された型枠は、20数年以上前に佐賀地区で継承されていた卒業証書用のもので、中心部に佐賀小学校の校章が「かみ」に浮き出るように作られています。当時使用していたものが地元の方によって



「かみ」は天日でパリパリになるまで干します。卒業式が待ち遠しいですね。



楮とトロロアイ（粘り気を出すために加えている植物）を漉き混ぜた水を枠の中へ流す作業は素手で行います。寒い中でしたが、世界にふたつとない自分だけの作品を作っているという気持ちが心にあるのでしょう。みんな最後まで本当に丁寧に制作していました。



大切に保管されていたおかげで校章入りの卒業証書を制作することができました。

卒業証書にするかみと、お家の方からのメッセージを書いてもらうかみの制作も同時に進行され、事前に準備しておいた植物の葉や貝殻、ビーズなどを使って思い思いの飾り付けを施しました。



実際に若山（拳ノ川地区）に存在する野生化した楮を用いて説明がされました。

1月13日、黒潮印の商品開発セミナー「日本のかみは若山楮で守ろう」（黒潮町雇用促進協議会主催）が保健福祉支援センターこぶしで行われ、現在黒潮町で若山楮栽培の復活を計画している佐賀北部活性化協議会（会長矢野元）のメンバーほか町外の楮生産者や紙漉き、紙屋などの関係者ら約30人が参加しました。

セミナーでは、京都府で楮栽培を行い紙漉き職人でもある真下八十雄氏（世界紙文化遺産支援財団紙生産事業局主任）から、楮の栽培から紙漉

地域雇用創造推進事業
黒潮印の商品開発セミナー
日本のかみは若山楮で守ろう

きまでの一連の工程や管理面での注意点などの説明がされました。

セミナーの中では真下氏から「拳ノ川地区の若山楮の復活を非常に期待している。高知県内で栽培される楮の中でも若山楮は明治時代から高い品質を誇っていたことはかみ業界の中で広く知られています。注目している紙屋も多い。ただ、販売だけではなく、この場所です昔からあった楮の栽培や紙漉きを貴重な文化資源として、地元の中で継承してほしいと思います。その中で、町外の方への体験事業としての可能性を広げ、地域の交流と活性化に繋げていってほしい」と、佐賀北部活性化協議会に対し期待と励ましの言葉が送られました。

佐賀北部活性化協議会の矢野元会長は「協議会としても北部地域ならではの貴重な産業文化を復活させることの必要性や、活性化に繋げたい思いは十分に感じている。自分たちが出来ることから少しずつ始めて、地域住民と力を合わせながら継続し盛り上げていけたらと思います」と話してくれました。

砂浜で見るキャンドルナイト

砂浜美術館（入野砂浜）に約2,000個のキャンドルが並びます。地元の子もたちが将来なりたい夢を書いたメッセージキャンドルなども展示されます。ぜひ、会場に遊びに来てください。

開催：3月14日（土）
時間：17：00～キャンドル灯火
場所：砂浜美術館（黒潮町入野の浜）
NPO砂浜美術館 ☎43-4915

昨年9月9日、高知大生が「課題探求実践セミナー」という授業の一環で、黒潮町を訪れました。黒潮町での実地研修を通して「黒潮町の地域活性化に自分たちの企画で関わりたい」という思いを持った9人のメンバーが、グループを作りました。メンバーは、高知大学で学生の自主的な企画実施を支援する、高知大学学生支援GP「コラボ考房」プロジェクトに応募して採用されました。そして今回、砂浜でキャンドルナイトの企画を実施することになりました。